

2012 年度

海外語学研修@Stanford

体験レポート

■準備編

準備について （法学部 2年 森勇人）

こんにちは。2012年度 ALC2 に参加させて頂いた森といいます。私からは ALC までの準備について書かせて頂きます。来年度以降、ALC への参加を考えている方たちの参考になれば幸いです。

○はじめに

これを読んで、「まだ先の話なんだからその内しっかり準備始めれば大丈夫！」なんて昨年の僕と同じ事を思われるかもしれませんが、長い期末試験が終わると、既に出発まで一週間を切っている、なんて状況は去年に限った話では無いはず。早い内から ALC の準備を頭の片隅に置いておく事をお勧めします。

○英語力

まず、もう説明会等で聞いている方もいるかも知れませんが、英語力に自信が無いからこの研修への参加を戸惑っているのなら、その不安は杞憂です。昨年度 ALC では向こうに到着後すぐにリスニングテスト、クラスの先生とのインタビューがあり、その総合結果から英語のクラスが決まります。クラス1～6まで六段階もあり、自分と同じ位の英語力を持った人達と同じクラスになるので、自分だけ置いてきぼりを食らったりする心配はありません。かといってどんなクラスでも日本人とその他の割合が偏ったりする事もないので、アジアの学生達との交流をめいっぱい楽しむ事ができます。

また、参加する上で英語力の準備をしたいという事であれば、特にリスニングとスピーキングに焦点をあてておく事を個人的にお勧めしたいです。クラスであろうと普段のやり取りであろうと英語で行う以上、聞いて理解する力、発信する力が一番求められるのを昨年度感じました。やるだけやったら後は持てる力を振り絞れば、意外と通じるしわかってもらえるものです。



○topic について

ALC では、自分で研究したい topic を決めて、それについて最終レポートおよびプレゼンをする事になります。この topic は出発前から考える事ができます。スタンフォードの担当者に事前にメールでアドバイスをもらう事もできるので、余裕があれば是非考えておいた方がいいと思います。米国内の移民政策からアメリカンヒーローの考察なんてものに至るまで何でも可能です。Topic が決まったら、それに関連する英語の資料や文献を探し

ておくと、手間が省けていいと思います。

○最後に

長々と書かせていただきましたが、とにかく参加してみれば、この一か月は絶対に記憶に残る最高の思い出になるでしょう。この研修で出会った人たちは今後も一生付き合っていきたい自分の宝物です。これを読んだ方が是非 ALC に参加して、最高に楽しい一か月を過ごして頂けたら、またこの体験記がそんな方たちの一助になればとの思いをこめて筆を置かせていただきます。

準備について （経済学部 2年 詫摩泰一郎）

■初めに

2012年8月5日から9月6日までの約1か月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州のスタンフォード大学にて ALC(American Language and Culture Program)という海外語学研修のプログラムに参加させていただいた。本稿では、その経験に基づき、このプログラムに向けいかに準備を行ったかということ報告する。

■参加したきっかけと準備

私自身、もともと英語の習得に興味があったわけではなかった。受験などでも英語は苦手教科であり、話すということは全くといっていいほどできなかった。しかし、ある一人の学生との出会いによってその考え方は 180° 変わる事となった。

2011年9月、私は1週間ほど宮城県石巻市の復興支援ボランティアに参加した。石巻市は同年3月に発生した東日本大震災で、地震や津波、地盤沈下など多大な被害を受けた地域であり、多くのボランティアチームが復興支援を行っていた。そこで同じボランティア班のなかに一橋大の生徒がいた。彼はその年 ALC に参加して来た学生で、その夏の体験談を私に聞かせてくれた。その経験談はとても刺激的であり、また石巻市にはたくさんの外国人ボランティアが来ており英語で会話する機会も多かったこともあって、参加を決意した。

私は英語を流暢に操るわけではない。しかし石巻の夏の経験以降、ボランティアや海外に興味を持つようになり、選抜面接を通過した後には、スタンフォード大では「日米の学生のボランティアに対する意識の違い」について調査しようと思った。なぜなら、日本の大学生の多くは過去最大の震災が発生して、緊急な支援が東北地方で求められている事態の中でも、「自分には似合わない」「やりたいけどきっかけがない」などという消極的な姿勢であったからである。一方では、わずか19歳の女子学生が、はるばるドイツからアルバイトで稼いだお金を貯めて石巻に駆けつけてくれ



ていた。このことから、やはり日本と海外ではボランティアに対する意識が違うのではと考えた。特別に日本を出発する前に、調査等を行ったり英会話の特訓をしたりはしなかったが、明確に調査テーマを決めていたことで、研修中もアンケートを作成したりレポートの構成を考えることにあまり時間をかけることなく、他のアクティビティに時間を割くことが可能になった。

■まとめ

この1か月は本当に忘れられないものとなった。研修後は英語の学習に磨きをかけ、海外の人との交流も積極的に行えるようになり、世界観も変わった。本当に素晴らしい経験ができ幸せであった。

■生活編

寮生活・ルームメイトについて (経済学部 1年 竹山晃平)



他の短期留学プログラムと違ってこのStanfordのプログラムの最大の魅力の一つは大学の寮で一か月共同生活することです。参加者は一人ひとり違う国の参加者とルームメイトとなって2人で1つの部屋で一か月過ごします。僕のルームメイトはMickieという台湾人だったのですが、彼はとても穏やかで優しく、またお互い1年生で上級生ばかりの

他の参加者に対して最初引け目を感じていたためか、すぐに仲良くなりました。英語もペラペラな彼（彼はSection6、一番レベルが上のクラス。ちなみに僕はSection5でした）と部屋と一緒に宿題をやりながら英語で雑談することはいい刺激になって英語力の向上につながったと思います。ただ実際のところ、僕は一か月の間自室は寝るときと最後のレポートの追い込みのとき以外は使っていませんでした(笑)。というのも、これは半数以上の参加者がそうだと思うのですが、日中のアクティビティから帰ってくると学内ではみんなほとんど1階のラウンジに溜まります。みんなで楽しく雑談したりインスタントヌードルを作って食べながら宿題やプレゼンの準備とかやってるので、出身国にかかわらずすぐに仲良くなれるし、英語力も上昇すること間違いなしです。ただ話に夢中になると毎晩2時3時まで宿題終わらないです。僕はそのパターンでした(笑)。それでもこうしたリラックスした時間を友達と過ごすことは寮生活特有のかけがえのない思い出です。他にも広いキャンパスに繰り出してジムやショッピングモールに行ったり、ビーチバレーなどスポーツに勤しんだり、みんな思い思いの時間を過ごしていました。あと忘れられないのが、バースデーサプライズです。スタンフォードでは誰かの誕生日になると、みんなでその人の部屋に押しかけて部屋から運びだし、シャワーに放り投げるといふなんとも迷惑(笑)な

イベントがあります。僕は幸運（不運）にもプログラム中に誕生日を迎えたので同じように部屋から運び出され、シャワーに投げ込まれるのかと思いきやまさかの真夜中の冷たい



（寮のダイニングホール）

fountainに投げ込まれました。こんな壮絶な誕生日はもう二度と来ないと思います(笑)。どれもこれもホームステイではなく寮生活でしか経験できないことばかりです。留学の目的は人それぞれ違うかもしれませんが、でもスタンフォードのプログラムならその目的はもちろん、他にもたくさんのことを必ず得られることを保証します。絶対お勧めですよ。

寮生活・ルームメイトについて （社会学部 2年 平尾崇）

このプログラムの大きな楽しみの一つが、寮生活です。一橋の学生、その他の日本の学生、台湾やマカオの学生、スタンフォードのコーディネーターの学生、そしてVIAのスタッフが一つの寮で1か月間過ごします。寮はALC1とALC2では別の建物です。

部屋は2人部屋で、基本的には他の国の学生と同じ部屋になります。僕は台湾人の学生と同部屋でした。当たり前ですが、彼とは英語でコミュニケーションをとります。たまにうまく伝わらないこともあります。次第にお互いの事が分かっていき、いつも時間も忘れるくらい話が盛りました。両国の文化の違いなどから、ゴシップまで本当に様々なことを話すことができました。



寮には1階にみんなが集まれるラウンジがありました（左図）。ラウンジでは、ミーティングや様々なアクティビティを行うほか、みんなが集まって話をしたり遊んだり、勉強をしたりと、多目的に使われます。特に、夜の勉強時には多くの学生がラウンジに集まり、一緒に宿題に取り組みます。談笑しながら、夜食を食べながら、というように決して効率が良いとは言えませんが、この時間は本当にかげがえのない楽しい時間でした。ラウンジには、キッチンもあり、簡単な調理なら行う

ことができます。スタンフォードのコーディネーターがケーキを作ってくれたり、台湾人

の友達が夜食にインスタントラーメンを作ったりしてくれました。僕たちも、日系スーパーで材料を買ってきて、ラウンジで「そうめんナイト」を開きました。寮生活での思い出の大部分はここでのものなので、学生は皆ラウンジに思い入れがあると思います。

これだけの濃密な時間を共に過ごしていれば仲良くなりませんがありません。国籍や性別に関係なく、メンバーとは本当に仲が良くなります。空港でのお別れは多くの人が涙し、本当につらいものでした。帰国後も互いにポストカードをやり取りしたり、facebookなどを使って交流を続けています。特に、ルームメイトの台湾人の学生とは今でも（執筆は12月）ほぼ毎日facebookでメッセージのやり取りをしています。

僕にとってスタンフォードの寮生活は、最高の仲間と最高の時間を過ごすことができる場でした。

寮生活・ルームメイト（商学部4年・柘植大輔）

ALCのプログラム期間中は大学構内の寮に宿泊することになります。寮には宿泊部屋のほか、共有のトイレ・シャワー、簡単なキッチン、広い共用のラウンジなどがあります。ランドリーやカフェテリアも歩いてすぐのところであり、生活するには全く困らない環境でした。また、基本的には全員二人部屋で、かつ、異なる国籍のルームメイトを持ちます。僕の場合は、台湾人のルームメイトでした。それでは寮生活・ルームメイトについて少し詳細に説明します。



まず、寮生活について説明します。個人的には、この「寮生活」はALCのプログラム中でも最も重要な部分の1つだと思っています。なぜなら、寮生活こそが他の国から来た学生やスタンフォードのコーディネーターと交流し、仲を深める一番の機会だと思うからです。毎日、夕食後のフリータイムには必ず10数人の学生が共用のラウンジにいて、その日の宿題をしていたり、おしゃべりを楽しんでいたりしていました。もちろん僕もそのうちの一人でした。例えば、台湾人が持ってきたインスタントラーメンでラーメンパーティをしたり、宿題のわからない部分についてコーディネーターに相談したり、時には参加者の誕生日パーティをやったりと、とにかく色々な形で色々な学生が毎日交流している、そういう場所だったと思います。もちろん、自分の部屋ずっといることもできるし、それを咎められることもないかと思いますが、個人的には毎日必ずラウンジに行ってみる方がベターだと思いますし、僕自身そうしていました。英語に触れ、英語を使う絶好の機会ですし、何より他の国の学生とより親しくなれます。これは、スタンフォード生活をより楽しむために不可欠なことだと思います。（恐らく誰かしらが述べていると思いますが、）ALCプログラムでは参加者はレベル別の授業のグループとコーディネーターグループの2つのグループに所属することになると思いますが、ラウンジでの交流はそうしたグループ間の壁も関係なく色々な人と関われる点でも、友達の輪を広げるいい機会だと思います。

次に、ルームメイトについてです。ルームメイトはALC生活において非常に重要な存在だと感じました。1ヶ月間毎日一緒の部屋で寝る訳なので、必然的に話す機会も多く

なりますし、親しくもなります。寝るときだけじゃなく、朝も大体ルームメイトと一緒に食べたり、寝坊しないように助け合ったりと、とにかくいいパートナーって感じでした。あと僕の場合は、ラッキーなことに、ルームメイトと同じレベルのクラスだったので、授業の話なんかもしたりしてました。ルームメイトは恐らく、このプログラムで始めて英語で会話する海外の学生になると思いますが、怖がらず色々積極的に話してみるのがよいと思います。僕自身、英語は全然話せなかったのですが、このプログラムに参加している他国の学生はみんな、ほんとにいい人たちなので、うまく話せなくて申し訳ないとかは気にせずどんどんコミュニケーションを取るようにすることが、このプログラムを満足いくものにする秘訣だと思います。

以上、寮生活及びルームメイトについてでした。このレポートが参加を考えている方々のご参考になれば、僕としても嬉しい限りです。

寮生活・ルームメイトについて（商学部4年 岩井優）

☆ルームメイトと初めて対面

私のルームメイトは台湾から来た Courtney（台湾の子は皆イングリッシュネームを持っています。）という子でした。純粹素朴なソフトボール少女で、ALC1の中でもおとなしい性格の子だったと思います。そんな Courtney と初めて ALC1 の寮で会った時、彼女は大きいスーツケースを二つ持っていました。私達の部屋は3階の一番奥だったので、そこまで Courtney のスーツケースを私が1個運んであげるのが最初のやりとりでした。よくよく聞



いてみると、どうやら台湾では1個は自分の荷物用、もう1個はお土産用に2個スーツケースを持ってくるのが普通ようです(笑)。またその後荷物整理を手伝ってあげると、スーツケースの中から大量のインスタントヌードルがでてきました。その後の寮生活を通してわかったことですが、台湾人は本当に台湾ヌードルが大好きで毎晩のようにインスタントヌードルを食べていました(笑)。とにかく Courtney との初日は、スーツケースとヌードルに驚き、これからの1ヶ月の寮生活でどんな新しい発見があるんだろう、とわくわくして眠りにつきました。

☆心の距離が少し縮まる出来事

寮生活が始まって数日、正直 Courtney とはあまりコミュニケーションをとれていませんでした。いつも台湾人の子といたし、話しかけても微妙な反応しかしないのもうこれ以上仲良くなるのは難しいのかなあ、とっていました。しかしある日私が宿題に疲れ果ててベッドの上にもものすごい勢いで倒れこんだら、Courtney が大爆笑をして近寄ってきました。するといきなり「なんか楽しいことしようよ！台湾のおいしいごはん紹介するよ！」

と言い、とても楽しそうにネットで台湾の美味しいごはんを紹介してくれました。私も日本のごはんを紹介しましたが、Courtney は全部知っていました。二人で大笑いながら紹介し合ったんですが、最後にコートニーに「私たちはよく日本を訪れるし、日本の文化が入ってきてるから日本のことをよく知っている。でも日本人は台湾を訪れたことがある人はほとんどいないし、台湾のことを何も知らない。もっと台湾のこと知って欲しいし、台湾に来てほしい！すごくいい国だよ！」と言われました。この言葉は嬉しくもあり、考えさせられるものでもありました。

この出来事は些細なことですが、私にとってはとても心に残る思い出です。おとなしいと思っていたルームメイトが突然心を開いてくれて、とても嬉しかったです。また最後に Courtney の言葉を通して、相手の事はもちろん、相手の国や文化や歴史に積極的に興味を持つことは国際交流においてとても大切なことだと改めて気付きました。

☆日常生活

朝はいつも二人で早起きしていました。お互い朝の混みあったカフェテリアに行くのが嫌で、朝一番に一緒に朝ごはんを食べて身支度をしていました。夕方は一緒に外に走りに行っていました。夕方のスタンフォードは昼間とはまた違う美しさがあり、とても気持ちよくジョギングできます。元気がある時はダウンタウンまで行くこともあり、ヤシの木が連なる道を走るのはとても気持ちが良かったです。夜は二人ともラウンジには行かず部屋に閉じこもっていました。宿題の合間にお菓子を交換して食べたり、音楽を掛け合ったりしながら過ごしていました。

私と Courtney は年も少し離れていたし、性格も真逆だったと思います。それでも一緒に生活し、一緒の時間を過ごす中で本当に仲良くなれました。

■授業編

コーディネーターについて (社会学部 2年 太田彩香)

コーディネーターは空港に到着してからアメリカを去るまで、ALCプログラムを通して私たちの面倒を見てくれるスタンフォードの学生さんたちです。彼らは私たちが空港に着いたときから温かく迎えてくれ、同じ寮で一ヶ月生活し、同じご飯を食べ、スタンフォード内を初めサンフランシスコや Palo Alto(大学近くのダウンタウン)を案内してくれたり、夜遅くまで宿題に追われる私たちを手伝ってくれたり、プレゼンの見本を見せてくれたり、時には夜中に車を出してお菓子を買ってきてくれたりと、右も左もわからない私たちをずっと助けてくれます。

コーディネーターは私たちが来るずっと前から寮を飾り付けしたり私たちの写真をカルタのように並べて覚えたりして準備してくれています。なんとといっても、プログラム中の授業外のアクティビティの多くは彼ら自身が計画してくれたものです。彼らのおかげで大学の授業で学ぶこと以外にたくさんの経験ができました。計画されていたアクティビティ

以外にも、こんな事がしたい！というアイデアを話せばきっと力になってくれるはずです。

とはいえ彼らも同じ大学生、何もわからない私たちからはおとなに見えますが、話してみるとうわさ話大好きでパーティー好きであそぶことにも学ぶことにも一生懸命で素敵な人たちばかりです。人見知りな私でもそうだったので、きっとすぐうち解けられると思います。ALC2のコーディネーターたちは皆アジアに興味があったりゆかりがあったりする人たちだったので、アジアの話をしたり Chinese を食べたりもしました。

プログラム中はずっとお世話になりっぱなしでしたが、本当にいい友達に恵まれたと思います。今回は直前にヨセミテ観光が中止になったこともあり、ディレクターを始めコーディネーターたちもあわただしく本当に大変だったと思います。今年はアメリカを発つ順番が日本人が最後だったのですが、空港でお別れするときはあまりに寂しくて皆して号泣でした。そしてプログラムが終わった今でも、ALCの絆はずっと続いています。コーディネーターもこの冬日本に来てくれました。そのぐらい仲良くなります。誰よりも走り回って誰よりも私たちのことを気にかけてくれて、そして誰よりも近い位置で接してくれるコーディネーターがいなかったらこのプログラムは成り立たないと思います。

最後まで素敵な思い出をありがとう。これからもずっと交流が続いていくと思います。

ALC2のコーディネーター紹介 (経済学部2年 山本彩加)

こんにちは。去年の夏に私はALC2に参加しました。この文章を読んでもくださっている方の中には、今年の夏に参加しようかどうか迷っている方もおられることでしょうか。その“迷える方々”にとって、私の経験が少しでもこのプログラム参加の動機付けとなれば幸いです。標題のとおりコーディネーターにポイントを絞って、皆様に興味を持っていただけるようご紹介していきたいと思います。

コーディネーターは、ALC1、2それぞれに7人ほどいます。彼らはスタンフォードの学生でアジアに興味を持っている人たちです。私たち同様に申し込みをして面接も受けたそうです。プログラム期間中は一緒にスタンフォード大学内の寮に滞在し、主に宿題のお手伝いやアクティビティの企画をしてくれます。私たちのコーディネーターはとても個性的な学生ばかりで、ぜひ一人ひとりを皆さんにご紹介したいと思います。



1. David Calica

ALC2唯一の男性で、いじられキャラです。彼はフィリピン人と日本人のハーフでもあり、日本の文化にとっても興味を持っています。ちなみに日本のアニメのなかではポケモンが大好きです(笑)。とても明るく、Final Paper(※プログラムの最後に提出する重要なレポート) 締切前夜は一緒に、徹夜して手伝ってくれるなど、親切な‘デキる’男子です! 笑顔がとてもかわいく、癒し系男子でもあります。また、Davidの口癖である「Yo!」をみんなが真似するなど、彼はとても愛

されています。

2. Fang Yi Lin

写真右側の女の子です。写真は最後の晚餐で記念に撮りました。台湾人で中国語はもちろん、英語・日本語が堪能です。さらに、ピアノもコンピューター関係も得意で多彩な才能を持っています。また一方で、少しお茶目な一面もあり、イケメンの前ではシャイになります(笑)。私自身は Fang Yi のグループ(※コーディネーター1人につき何人かの参加者が集まってグループをつくりました)のメンバーだったので、接する機会が多く、今も良き友達です。



3. Irene Calimlim

写真右に移っている女の子です。日本とフィリピンのハーフで、コーディネーターのなかでおそらく一番アクティブです。最年長のためお姉さんの存在です。毎晩みんなが宿題に追われているときに、優しく英語を教えてくださいました。人懐っこい性格で、参加者だけでなくコーディネーターも Irene に頼っていました。Irene と一緒にイケメン俳優やアメリカのドラマの話をしたことはとても印象強く残っています。

4. Jade Marcos

フィリピンからアメリカに移民してきたダンスが大好きな明るい女の子です。毎日の推定睡眠時間は3時間?ですが、常にテンションが高いです。部屋からはいつも音楽が流れていて、いつも楽しそうに歌っていました!また、彼女は恋愛物が大好きで、常に「Gossips?」と聞いてきました。一方で学校の成績はオールAという頑張り屋な一面もあります。ALC2 の話題の中心で、Jade なしでは AVC2 は語れない、それぐらい大きな存在です。





5. Lara Abaya

左に写っている笑顔がトレードマークで、声がかわいらしいです。料理が上手で家庭的な一面もあります。インドネシアやジャカルタで育った経験があり、さまざまな文化への理解がありました。また冷静に判断ができるまさに才色兼備な女性です！ 左の写真は Great America(遊園地)に行った帰りのバスのなかで疲れているのに見せてくれた笑顔です。大きなぬいぐるみをもたらえてご満悦な Lara です。



6. Nina Myers

日本とアメリカのハーフで、トトロが大好きです。またおっとりした性格ですが、ときにはしっかりした一面も見せてくれました。Nina がいるだけでその場が和やかな空気になります。男子(特に日本の男子)からモテモテで ALC2 のアイドル的存在です。見かけによらず、ボート部に所属していることもあり筋肉が素晴らしいかっこいいです。そうしたギャップも萌えます(笑) 次に紹介する Xzavier とは親友で、いつも仲良くしていました。

7. Xzavier Brown

おしゃれが大好きで、よく一緒に買い物に行きました。右の写真もサンフランシスコからのショッピング帰りに撮りました。スタイルがよくて脚が長いので何を着ても似合っていました。まだ一年生だったのにも関わらず、しっかりしていて連絡事項アナウンスといった大事な仕事は彼女が担当していました。プレゼンテーション(※コーディネーター全員が発表しました)では「アカデミー賞について」のレベルの高いプレゼンを見せてくれました。会話ではつつこみ担当のかわいらしい Xzavier です！



それぞれ写真つきで7人の紹介をしました。グローバルな彼らの魅力を十分にお伝えできただろうかという思いはあります。一か月という短い期間でしたが、英語があまりしゃべれない私でも仲良くなることはできました。コーディネーターは英語だけでなく勉強も教えてくれた優しい人たちです。もっとコーディネーターの情報が知りたいという方はALCのホームページを覗いてみてください。

http://www.viaprograms.org/index.php?option=com_content&view=article&id=510

コーディネーター以外にも参加者やアクティビティの紹介が載っています。スタンフォードの研修についてももっと話が聞きたいという方は、私で良ければ気軽にメールしてください！ 相談にものります。(2111291s@g.hit-u.ac.jp)

最後に、稚拙な私の文章を最後まで読んでくださってありがとうございます。少しでもコーディネーターの素晴らしさが伝わればいいなと思います。

授業について (商学部 2年 居村尚樹)

私は section4 というグループに所属していました。Section4 には日本人 3 人、台湾人 5 人中国人 2 人韓国 1 人マカオ 1 人といったメンバーで非常にバランスの良いグループでした。

授業は EC(Effective Communication)と TD(Topic Development)の二つに分かれます。EC は基本的にはとにかく英語を話すことを焦点にあてた授業でプレゼンテーションやアンケート・インタビューの方法について学ぶ授業でした。

2 回目の授業で 3 分間ほどの英語のスピーチをする機会があったのですが、他のみんなの英語のレベルの高さにびっくりして、自分のスピーチのときに頭が真っ白になって全然上手く行かなかったのをおぼえています。(笑)EC クラスはグループワークが多くとにかく同じグループの仲間と仲良くなる事が出来るので私は EC の授業が好きでした。また台湾人と中国人と三人でキャンパスを歩き回って Stanford の学生にアンケートをとりいたり、それをまとめてプレゼンテーションをしたりと日本にいたら絶対に出来ないことを経験することが出来ました。私は最初のスピーチでも失敗し、Quiz の点数も悪く、最初の時点ではクラスの中でどちらかというところ落ちていたのですが、授業に必死にくらいついたら結果、最後のプレゼンテーションはクラスの中でも一番の評価をもらうことが出来ました。最初は周りの英語に圧倒されるかもしれませんが、なんとかくらくらいつけば、その輪の中に入って大きく成長していくことが出来ると思います。

TD では、主に自分で決めたトピックについてリサーチペーパーを書き上げるということが最大の目標です。EC と比べて一人で行う作業が多いので計画的に進めていかないと、最終週に夜遅くまで起きることにな



ってしまいます。レポートの書き方なども詳しく教えてくれるので大変ためになる授業でした。

Stanfordでの授業やグループワークを通して、もちろん英語で話す自信はつきましたが、なによりもクラスの仲間と本当に仲良くなることが出来ました。全てが私にとってかけがえのない経験となりました。

■ 観光編

観光について (法学部 2年 吉田 怜未)

ここでは、観光について説明します。

Stanford大学の近くには、Palo Altoという繁華街があります。放課後や、土日は、よくここに遊びに行きました。かわいい雑貨屋さんや、



アイスクリーム屋さん、カフェなどがたくさんあり、日本でいうと「親しみやすい表参道」といった雰囲気でした。私のおすすめのお店は、2つあります。1つは

「Cheese cake factory」。ここは、Stanfordに来て最初の週末に Coordinator が連れて行ってくれたところです。その名の通り、特大サイズのチーズケーキが有名なお店なのですが(その数、20種類ほど!!)、パスタ

やハンバーガーなど、フードもとても美味しかったです。アメリカに来て1週間、お世辞

にもおいしいとは言えないカフェテリアの食事とうんざりして

いた私たちにとっては、天国でした。もう1つは「Yogurt

Rand」という、フローズンヨーグルトのお店です。クラスの

台湾の子が連れて行ってくれました。入ると、何故かサンリオ

のキャラクターがついた大きなカップをもらえます。セルフ

サービスなので、好きなヨーグルトとトッピングを好きな

だけ入れることができます。ヨーグルトだけでも、ライチ、バニラ、イチゴなど様々な種

類があります。トッピングなんて、星の数ほどあります。日本では、珍しいスタイルなの

で、ぜひ行ってみてください。私は、嬉しくてたくさんとりすぎて、衝撃的な値段になっ

てしまいました。



そして、Stanford生活に欠かせない観光スポットと言えば、San Franciscoです。Stanfordから電車で1時間強。海が近い港町で、どこか「横浜」に似ています。最初の週末に Coordinator が連れて行ってくれたのですが、とても1日では回りきれませんでした。ですから、あとで個人的に行き直す人たちも多かったです。大きなショッピングモールがあり、台湾の子たちは、信じられないほど大量に買い物していました(台湾

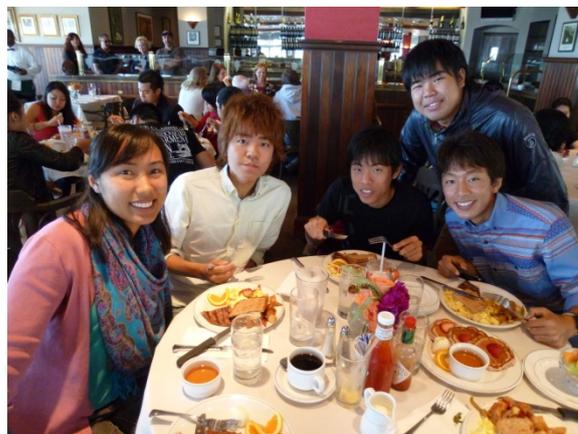
の子たちの部屋は、もれなく空き箱やショッパーであふれていました)。もちろん、そんなにお金を使わなくとも、海沿いを散歩して、名物のクラムチャウダーを食べるだけでも十分楽しめます。China Town もあり、文化の多様性を感じられるところも特徴ではないでしょうか。

そのほかにも、Stanford 近辺では、様々な観光スポットがあります。ぜひ、全部制覇する気持ちで楽しんでください。

観光について（商学部 3年 東直樹）

プログラム期間中に観光できる機会は二つに大別される。一つはアクティビティとして用意されているものを利用する場合、もう一つは時間を作って友人やコーディネーターと共に、あるいはひとりで街に繰り出す場合である。私はこれらの全てを経験したので、それについて以下記したい。

アクティビティとして参加したものは、決められたグループで、サンフランシスコの定番スポットを回る観光であった。トロッコに乗り、シーサイドを散歩し、ゴールデンゲートブリッジを見て、最後にショッピングを楽しむ、といったような感じだ。サンフランシスコを熟知したコーディネーターが案内してくれるため、効率よく、安心して観光を楽しむことができる。とはいえ、観光スポットは全員の意見の最大公約数的な場所に限られるし、言ってみればパッケージ旅行のようなものであって、冒険心がくすぐられるようなことは無い。



その点では、ひとりでサンフランシスコに繰り出した思い出は強烈に残っている。旅の究極の醍醐味はひとり旅にあると妄信していた私は、自身の拙い英語力も顧みず、無謀にも一人でサンフランシスコへ繰り出したのである。当然バスを乗り間違えるわ、道に迷うわで散々な目にあい、挙句の果てには浮浪者がたむろするストリート（後に観光ガイドで見ると、昼間でも凶悪事件が多発する危険区域と書かれていた）に足を踏み入れてしまい、身が縮みあがる思いをした。それでも街の人に助けられながら、目途をつけていた観光スポットは全て回り切り、終電ギリギリで寮に帰還できたのは、持ち前の運の良さなのかもしれない。無論、助けてくれた心優しい人々には大感謝である。

しかしそんなひとり旅も、友人3人と一緒にコーディネーターに頼み込んで実現したドライブツアーを前にしては、はるか遠くに霞んでしまう。カリフォルニアは他州に比べ公共交通機関が充実しているとはいえ、場所は自動車大国アメリカ、旅行で一番便利なアシ

はやはり車である。とはいえプログラム中の生徒の自動車の運転は禁止されていて、移動手段はバス頼みだ（しかもこのバスの案内は難解を極めており、私にとっては完全に意味不明）。そこでコーディネーターに頼み込み、彼女（コーディネーター）に自身の車を運転させ、無礼にもアシとしてこき使わせたのである。おかげで車でしか行くことのできない観光スポット（Twin Peaks）に連れて行ってもらったり、Castro Streetにあるここでは到底書き記すことができないようなオモシロイ場所に連れて行ってもらったりと、この上なく充実したツアーを楽しむことができた。彼女には本当に感謝してもしてもし切れない（別記事にもあると思うが、このプログラムは、コーディネーターやプランナーの方々をはじめ、関係者の方々の身を削るほどの尽力によって支えられている）

観光を楽しむ秘訣は、とにかく自分から積極的に行動することにあると思う。流石に女の子のサンフランシスコひとり旅はお薦めしないが、ぜひこの機会を生かして、あらゆるところを観光してみるとよいだろう。また、せっかく留学に来ているのだから、台湾や韓国の友人と連れ立って観光するのもお薦めだ。そこにコーディネーターを巻き込むことができれば、この上なく充実した観光ができることは私が保証する。